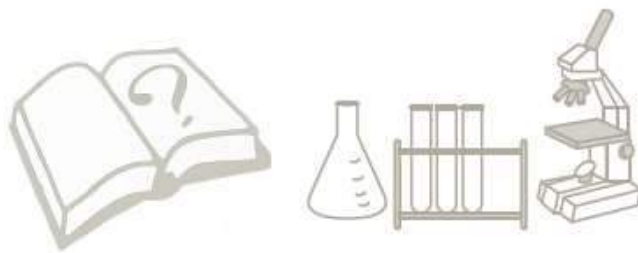


BOOK LABO



「透過光」と「反射光」

図書館長 大津 忠彦

職業柄、いろんな出版物の恵贈にあずかる。「あとで見る」とばかりに、無精にもしばしば造成してしまう傍らの山積みから、「恵存」と書き添えられた学兄・学友の著書、論文抜き刷り等を見出すや、格別に嬉しく、また、励まされた気分ともなること一再ではない。専門分野の細分化が進展したこんにち、充分には理解できないその精緻な論述に悩ましさをおぼえながら、拾い読みに済ませても、時としてその発想・着想の妙にうなせられることもしばしば。

これまた職業柄、博物館・美術館の展覧会や収蔵品のカタログ（図録）が、時にはポスター・「チラシ」等共々、送付されて来る。総じて大判。発送元のロゴ表示、そしてなによりそのズッシリとした重量感が、開封前から中身に大いなる期待を抱かせる。展覧会カタログは、外観それ自体が「作品」然としている。表紙の形、大きさ、厚さ、色、手触り、光沢（あるいはマット）等々、そしてそこに載るといえば表題の字体、大きさ、レイアウトすなわち「字くばり」は、中身の鑑賞前すでに読む者を魅了する（裏表紙、「背」もしかり）。

ある時期私も、企画展開催の一環としてカタログ（図録）制作に随分と勤しんだ。編集と原稿執筆の双方に携わると、すなわち編著者となるとそれはそれは大変。しかしこれが実に楽しい。自分の中にある完成イメージが次第に形となって行くことの高揚感、「ゾクゾク」するものがある。当時は、制作工程作業において重要な「プロ技」がいくつも介在した。なかでも写真撮影と印刷それぞれの技量は、カタログ外観の最終出来栄を大きく左右した。したがって、編著者として大いに学ばせて頂いたと今更ながら感謝の念に堪えない。例えば、企画展カタログ図版において、色調と質感が現物の再現度を確たるものとしているか否か、これはきわめて重大事。なぜなら、会場では誰もが展示物と図像を容易に「見くらべる」からである。この時「エッ！？、アレっ？」は、勿論、あつてはならない。でも、これがなかなか難しい。ここには、「色」といっても「光の三原色（＝RGB：レッド、グリーン、ブルー）」と「色の三原色プラス黒（＝CMYK＝：シアン、マゼンダ、イエロー、ブラック）」との根本的違いがあるからである。

気付いて欲しい。最近、私たちは「光の三原色＝RGB」にお世話になることが実によくなくなった。すなわち「透過光」（＝パソコンやスマートフォンのように、ディスプレイを透過して目に直接入ってくる光）を頻繁に見る。これは現物直視やプロジェクター、印刷物（＝紙とインク）のように、反射した光が目に入る「反射光」とは、脳における認識において真逆的相違があるといわれている。「透過光」情報は受動的（＝そのまま認識）、対して、「反射光」情報は能動的（＝たとえば、チェックしながら認識）との由。しからば「ペーパーレス」はどうやら考えもの、「スマホ漬け」はやはり要注意ということか？薄々ながら感じさせられてはいたが、いま少し意識してみたい。

漱石没後100年 — 二人の師を思う

文学部 日本語・日本文学科 松下 博文

大学を卒業してぶらぶらしていた。友人は教師になって目の前からいなくなった。アルバイトで三年間をつぶした。小学校の教員になるつもりで教育学部に入学したが、いつしか文学に興味をもつようになっていた。バイトの合間をぬって毎週金曜日に大学の読書会に出かけた。沖縄で最初に近代文学研究を手がけた法文学部国文科の岡本恵徳先生（故人・琉球大学名誉教授）が主宰する漱石の輪読会だった。会の世話役は学科の諸事を嘱託されていた二級上の漢那敬子さん（その後、沖縄県教育庁文化財課勤務）が引き受け、ぶらぶら候補の二、三級下のあやうい後輩と合わせて、学科を飛び越えた本好き4、5人が集まっていた。

読書会は初期作品から一冊一冊ていねいに音読しながら進められた。「吾輩は猫である」「倫敦塔」「幻影の盾」「坊っちゃん」「草枕」「二百十日」「野分」「虞美人草」「坑夫」……記憶はここで途切れている。この後、沖縄を飛び出し、福岡に出てきたからに違いない。

「虞美人草」には骨が折れた。自我の強い高慢な女性の藤尾を通して、利己と道義の相克を描いたこの小説は、漢文に見まがうばかりの文体で、メンバーも手をやいていた。読み終えるのに半年かかった。しかし一字一字読みつづしていくこの輪読会は、わたしの知識を広げ、ひ弱な思考を深めてくれた。というより、活字を通していっそう思想の深淵に迷走する楽しみを教えてくれた。

福岡では重松泰雄先生（故人・九州大学名誉教授）に師事した。漱石と鷗外研究の大家であった。六本松の教養部校舎で講義を聴く日々を重ねた。先生は鷗外の「妄想」と漱石の「人生」「私の個人主義」を講義しておられた。なかでも「私の個人主義」には心を打たれた。

〈人として生まれたからには、自分の個性が発展出来るような場所に尻を落ちつくべきであり、自分とびたりと合った仕事を発見するまで邁進しなければ一生の不覚である。生来の個性がそこにぶつかって始めて腰が座るのであって、そこに尻を落ち着けて前に進んでいくとその個性がますます発展してゆき、仕事と個性がしっくり合った時、はじめて幸福と安心が得られるのである。自分の個性を発展させる自由を得たならば、第一に、他人に対してもその個性を認めて、彼らの傾向を尊重することである。第二に、自分の所有している権力を使用しようと思うならば、それに付随している義務を心得なければならない。第三に、自己の金力を示そうと願うなら、それに伴う責任を重んじなければならない。〉

主旨は、ある程度精神的修養を積み重ねた人でなければ、個性を発展する価値もないし、権力を使う価値もない。ましてや金力を使う価値もない、というものだった。漱石の考える「個人主義」とはエゴイズムを超えた「道義上の個人主義」であり、己に立脚しながらも倫理的修養を前提とするものであった。今思えば、岡本先生も重松先生もさながらこうしたお人柄に見えてくる。

1916年12月9日、漱石は49年の短い生涯を終えた。あれからちょうど100年が経つ。数年前から没後100年に合わせて講義は漱石と鷗外にしよう決めていた。計画通り今年度は岩波文庫を使って共通科目一年次の「文学」で「吾輩は猫である」、日本語・日本文学科の二、三年次専攻科目で「夢十夜」と鷗外の「舞姫」を講じている。ネコは500ページの長編で、内容も洋の東西を網羅した哲学あり、ジェンダーあり、俳句や漢詩や新体詩ありで、学生は慣れないコトバの世界をふうふう言いながら音読している。願わくは、受講生の誰かが、漱石と鷗外の文学的香気に触れ、生涯のどこかで、ネコや夢や舞姫をふたたび手に取り、コトバにつまづき文字と格闘した若き日の迷走をふりかえりながら、緑に囲まれたこの太宰府の学舎を思い出していただければ、教師としてこれほど幸せなことはない。



選書ツアー班

選書班の仕事は主に2つです。まず、選書のテーマを決め、学生の視点で取り入れるべき本を考えます。次に、実際にテーマに沿った本を書店に買いに行き、展示する際はポップを書きます。是非参加してみてください。



館内展示班

館内展示班は月に一度、テーマを決めて、オススメ本のコーナーを作っています。8号館はカウンター前の白いワゴン、4号館は検索用のパソコンがある、中央の棚の裏側に展示しているので、是非ご覧ください。



学生図書委員の取り組み

他大学見学班

2016年度、他大学見学班では、福岡女子短期大学、福岡大学、九州大学伊都キャンパスの図書館の見学を行いました。見学を通じて、筑紫女学園大学の図書館を更に良くしていくための取り組みを行っています。また、2017年度は西南学院大学の図書館見学を行う予定です。BOOK LABOの作成にも取り組み、構成を考える事が難しかったですが、委員の皆さんと協力し合いやり遂げる事ができました。

データベース班

図書館が契約しているデータベースの紹介をしています。12月にはデータベース講座を行い、CiNiiやブリタニカオンラインなど自宅でも使えるデータベースの使い方と活用方法を紹介しました。利用のコツを覚えるとレポートや論文作成に役立つこと間違いなしです。まだまだ勉強中ですが、データベースの知識が増えて楽しいです！



学習支援センター♡LCスタッフです

2015年から本格稼働したLCスタッフは、4号館図書館 CJ COMMONS を拠点に活動しています！！
まだまだ知らない方も多いと思います。そんな方々に、今回は私たちLCスタッフの活動を紹介します！



☆LCスタッフって何？☆

学生が学生の学習支援をするボランティアです。学生目線での支援をし、教えることで自分自身も学ぶことを目標に活動しています。

☆平成28年度の主な活動☆

- ・ピアサポートカウンターでの質問受付 … 予約なしで学習に関する質問を受け付けています。
- ・基礎学習講座 … 新入生の不安を取り除くための講座。LCスタッフが講師を務めました。
- ・高大連携プログラム … 筑紫女学園高校との連携プログラムのサポート。
年2回のプログラムで、計600名の生徒とのふれあいを通してLCスタッフも自己成長をしました。
- ・学園祭での展示 … 「活動紹介」、先生との距離を縮めるための「先生へのインタビュー」など。
- ・その他 … テスト勉強強化週間(質問受付の時間を増加)、先輩講座の主催など。

クローズアップ！学生が講師！“基礎学習講座”を開催しました。

平成28年5月12日から6月30日の毎週木曜日のお昼休みに、主に新1年生を対象とした基礎学習講座を行いました。LCスタッフ自身が実際に困ったことをテーマに職員さんのご指導のもと、時間をかけて準備をしました。先生には聞きにくい基本の基から講義し、それでもわからない場合にはカウンターで質問を受け付けるなど、丁寧に対応することができました。



最大参加者
22名!!!

大きなテーマ：ノートの取り方・レポートの書き方・発表の仕方・テスト勉強の仕方



＜参加者の主な感想＞

- ☆自分の気づかないポイントを知れて良かった。
- ☆レポートを書くことが不安だったけど、講義を聞いて書けるような気がした。
- ☆先輩の例や体験談を聞いて参考になったし、頑張りたいと思った。
- ☆最近一番の悩みだったテストのことを詳しく教えてもらい、ありがたかった。

LCスタッフ募集

私たちと一緒に活動してみませんか？教える経験を積みたい人！コミュニケーション能力を高めたい人！大学で何かやりたい人！など。皆さんの参加お待ちしております♡

☆Twitter：筑女LCスタッフ@lcstaff-chikujo

学生図書委員による図書館HP使い方講座 (その1)「カテゴリ検索」

OPAC (Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録) とは、図書館の本の検索サービスのことです。今回は、「図書館にどんな本があるの?」という時におすすめの「カテゴリ検索」について紹介します。

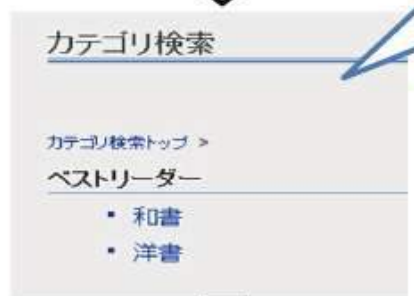


まず、図書館のホームページを開きます。画面右上の「蔵書検索 OPAC」を押して、「カテゴリ検索」を押します。



すると、ベストリーダーと学生図書委員選書図書と書かれているページが出てきます。見てみたい種類を選んでください。

- ◆ベストリーダー：最近1年間の貸出ランキングを表示します。
- ◆学生図書委員選書図書：学生図書委員が選んだ本を表示します。



ベストリーダーを選ぶと、「和書」「洋書」別にランキングが表示されます。

学生図書委員選書を選ぶと、選書の年度・時期ごとに表示されます。



すると・・・このようになります!!
よく借りられている本や、学生図書委員セレクトの本から読んでみてはいかがでしょうか。



今回は「カテゴリ検索」についての紹介でしたが、図書館のHPは、まだまだ意外と知られていない機能がたくさんあります。次号をお楽しみに!

学生図書委員おすすめの本（珠玉の3冊）



No.1

第1位 「書類・手帳・ノート」の整理術 著者:小西七重, 池田秀之(編)
請求記号:336.55 Sh96 所在:7号館書庫4階和書

片付けがうまくできない、どこに置いたのか忘れたというあなたへ。
身の回りの整理術を教えます!!

No.2

第2位 「少女」 著者:湊かなえ
請求記号:913.6 Mi39 所在:7号館書庫3階

少女たちの残酷な好奇心、複雑な人間関係、見えてくる真実…。
驚きの展開が待ち受けている一冊です!

No.3

第3位 「恋する日本語」 著者:小山薫堂
請求記号:913.6 Ko97 所在:7号館書庫3階

“じんわり”と心に響き、日本語が素敵だと感じられる。
筆者が独自に解釈して、創られた35の小さな恋物語。

*7号館は8号館図書館に繋がっています。

図書館あれこれ Q&A

Q1. どうして図書館が2つあるの？

A1. 4号館は短期大学があった頃の図書館であり、その名残です。

Q2. それぞれの図書館にはどのような本が置いているの？

A2. 4号館には保育関連の雑誌や絵本が数多くあり、8号館の3階は文学、4階は教育、5階は専門的な資料が多く置いてあります。しかし、4号館にも文学作品があるなど両方に同じ本が置いてあることもあるので、OPAC検索してから図書館に行くといいと思います。

Q3. どうして入館するときだけ、カードを通さないといけないの？

A3. 本当は出口も通して利用者の滞在時間を把握したいけれど、入口でカードを通すことで入館者数を把握したいと思っているからです。



発行 筑紫女学園大学附属図書館

〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2-12-1

TEL 092-925-9910 FAX 092-925-3318 <http://www.lib.chikushi-u.ac.jp/>

印刷 株式会社 昭和堂